

ベニバナヤマイワカガミの分類学的考察

浅 野 一 男

K. Asano : A taxonomic conclusion on *Shizocodon intercedens* forma *rubiflorus*

ヤマイワカガミは葉の先が両側の鋸歯より高く、側脈は葉の基部で一ヶ所に集まらず、花が白または微紅色である。筆者は下伊那にもヤマイワカガミが産することを、下条村大久保産の微紅色花品の標本（K. Asano, 1962. 5. 3, T1）に基づいて植物研究雑誌上で報告し、標本を東京大学に納めた。その後注意を払ってきたところ、下伊那の低山帯～丘陵帯に自生しているイワカガミは、葉の形ではヤマイワカガミの特徴を具えているけれど、花は紅紫色のもののみであることがわかった。そこで1989年ベニバナヤマイワカガミ（forma *rubiflorus*）という名を用意して本誌22号に予報し、翌1990年5月本誌23号にラテン文を添えて正式に発表した。

山崎敬は1990年10月、「イワカガミ属・イワウチワ属の追記」を植物研究雑誌に発表した。その論文の中でヤマイワカガミに地域的な2型を認め、基準としてのヤマイワカガミ（var. *intercedens*）とナンカイイワカガミ（var. *nankaiensis*）とに区分した。前述の下条村大久保産の標本はナンカイイワカガミに当てられている。氏はこの論文の中で、

南信産のイワカガミにも言及され、赤石山脈や伊那山地の低所に分布するイワカガミは、葉が卵形で鋸歯が多いので、オオイワカガミの南へ下がった型と見なすことができるとし、ナガバイワカガミ（forma *longifolus*）の名を与えて区別した。下伊那からは赤石山脈大沢岳1500mと1800m（山崎敬，1954）、大鹿村小渋川1300mと1500m（山崎敬・松田行雄，1953）、泰阜村金野（久保田秀夫，1970）、同村鳴神山（採集者不明，1956）が採用されている。こうしてみると下伊那では龍東地区（天龍川の東側）にナガバイワカガミが、龍西地区（天龍川の西側）にナンカイイワカガミが分布しているようである。

泰阜村金野（山崎は kaneno と読んでいるがキンノと読むのが正しい）は、ベニバナヤマイワカガミの基準生育地の飯田市龍江雲母から南へ直線で約3kmのところにあるが、金野で筆者が観察した地点（標高400～450m）のものはベニバナヤマイワカガミの特徴を具えたものばかりであった。

ここで問題になるのはこれら3者の関係である。ナンカイイワカガミとは、Folia ovato-orbiculata.

Tab. 1 下伊那産イワカガミ類の形態の比較

形質／種名	ベニバナヤマイワカガミ	ナンカイヤマイワカガミ	ナガバイワカガミ
花の色	紅紫色ごくまれに白色または微紅色	白色または微紅色	紅紫色
花茎の長さ	3～20cm		4～10cm
葉	長さ	3～6～（8）cm	2～6 cm
	幅	3～6～（7）cm	1.5～5 cm
	形	卵円形または円形	卵円形または円形
	先	両側の鋸歯より高く、鋭形で微突頭がある	両側の鋸歯より高く、鋭形で微突頭がある
	鋸歯	9～19対	3～6～（9）対
葉脈	側脈	直線	弓なりに曲がる
	葉の基部での側脈のつき方	一ヶ所に集まる場合と集まらない場合がある	一ヶ所に集まる
生育地	針葉樹林内 （ヒノキ人工林が多い、 標高350～1300m）	岩 上 （標高400～1300m）	落葉樹林内 （標高1300 ～2000m）

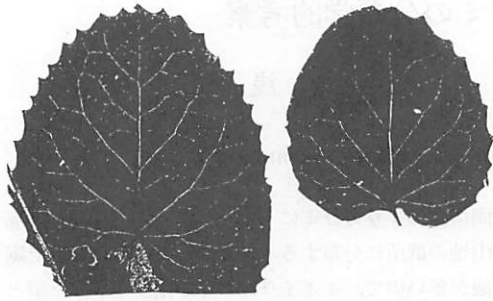


Fig 1 長野県飯田市上久堅神の峰産ベニバナヤマイワカガミの側脈と側脈の葉の基部における中肋へのつき方
左：葉脈が基部に集まる型
右：葉脈が基部に集まらない型

2—6 cm longa, 1.5—5 cm lata, apicis apiculata-acutis……Corolla alba vel roseo-alba. という原記載からも、生育地の on rocks in mountains at 400—1300 m からも、また山崎が図示した写真からも、ベニバナヤマイワカガミは一致しない。一方ナガバイワカガミとは, Folia ovata vel late ovata, 4—8 cm longa, 2.5—6.5 cm lata, serris acutis, 11—17 jugis, petiolis 4—10 cm longis. という原記載や生育地 In deciduous forests …… の記載に一致するところがある。しかし、詳細に検討すると Tab. 1 のように一致しない点が多い。

Tab. 2 をみるとベニバナヤマイワカガミの葉の長さとの幅の比は、大体 1 : 0.8—0.98 の範囲内でかなり円に近い形であることがわかる。花の色を除けば葉脈の様子や葉の形などはナンカイワカガミに似ている。ただ鋸歯の数は山崎が図示したナンカイワカガミの写真の 9 対を考慮に入れても、両者の間に一致が見られない。むしろヤマイワカガミの鋸歯の数 (10—19 対) に近い。一方ナガバイワカガミとの間には生育地や花の色に類似性が高いが、葉の形態には一致点が少ない。

ベニバナヤマイワカガミの基準生育地に、花筒が白色で腋部が淡紅色のものが 1 株混生していた。この花色の品は前記下条村大久保に続いて 2 例目である。該品の葉は小さくて長さ 1—3 cm, 幅 0.7—2.8 cm, 鋸歯の数は 3—8 個で、ナンカイワカガミに近い形を示している。ベニバナヤマイワカガミの大群落の中に生えていたことを考えると、ベニバナヤマイワカガミはナンカイワカガミに近いもので、ナンカイワカガミの分布域の北部、ヤマイワカガミの西部の地域にまとまって分布するヒメヤマイワカガミの

Tab. 2 下伊那産ベニバナヤマイワカガミの葉の形態

採集地	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	幅／ 長さ	鋸歯の 数(対)
清内路村平瀬	720	6.0	4.8	0.8	10
		5.5	4.5	0.82	10
		5.3	4.5	0.85	10
上郷町姫宮	690	6.0	5.3	0.88	16
		4.0	3.0	0.75	11
		4.0	3.7	0.93	10
		4.8	4.3	0.90	15
売木村売木峠	980	4.5	3.6	0.8	13
		6.7	6.0	0.90	19
		5.6	5.6	1	15
		5.6	5.5	0.98	18
		5.9	5.7	0.97	18
飯田市龍江雲母	640	5.3	4.8	0.91	16
		7.7	7.2	0.94	12
		6.0	5.6	0.93	13
		4.5	4.0	0.89	10
		5.7	5.3	0.93	9
同上 (白花品)		5.8	5.7	0.98	9
		5.8	5.4	0.93	10
		1.0	0.7	0.7	3
		1.5	1.3	0.87	5
飯田市上久堅神 の峰	760	3.0	2.8	0.93	8
		5.3	4.3	0.81	14
		5.3	4.3	0.81	13

変種と認めるのが妥当と思われる。

Schizocodon ilicifolius Maxim. in Bull. Acad. Imp. Sci. St.-Pet. 12 : 71(1867).

var. *rubiflorus* Asano, comb. nov.

Shizocodon intercedens Yamazaki forma *rubiflorus* Asano, in Bull. Bot. Soc. Nagano 23 : 31(1990).

Nom. Jap. : Benibanayamaiwakagami.

Distr. Central Honshu (Iida City and Shimoina Distr., Nagano Pref). In coniferous forests altitudes of 350—1300 m.

文 献

- 浅野一男 1964, 植物研究雑誌 39:172.
——— 1990, 長野県植物研究会誌 23:31,
山崎 敬 1984, 日本の野生植物 草本Ⅲ合弁花類
——— 1990, 植物研究雑誌 65:309-319.